

ろうきん ROUSAN ニュース

日本勤労者山岳連盟
Japan Workers' Alpine Federation
〒162-0814
東京都新宿区新小川町5番24号
TEL 03(3260)6331(代)
FAX 03(3235)4324(代)
URL http://www.jwaf.jp

お問い合わせ・情報は

フリーダイヤル
0120-44-2742
(平日10時~18時)
E-mail: jwaf@jwaf.jp

記念講演は日山協と共同で

英国よりS・ロンダ氏招く

日本勤労者山岳連盟 (労山) が創立されて、今年で半世紀。これを記念して創立50周年記念行事が5月30日〜6月5日に東京・札幌・大阪で開催された。

講師は、イギリス (労山) が創立されて、今年で半世紀。これを記念して創立50周年記念行事が5月30日〜6月5日に東京・札幌・大阪で開催された。

このうち記念講演は、労山と同じく結成50周年を迎えた「日本山岳協会」(日山協)と共同で開催された。各会場には、労山や日山協の会員、一般参加

成と教育指導の必要性が叫ばれた。このため、1964年よりイギリス・スコットランド・ウェールズ・北アイルランドに山岳リサーチ・登山教育指導者「山岳ガイド」な

者など、総計630名が詰めかけた。ロンダ氏によれば、イギリスでは1960年代年代初頭に重大事故が続き、登山者のリサーチ



東京会場

5月30日 (日) 午後2時より、新宿区早稲田大学構内の国際会議場で開催。参加者は日山協、労山、一般の230名。大画面に映し出された写真は迫力満点だった。



札幌会場

6月1日 (火) 午後6時30分より、札幌エルプラザで開催。200名が参加した。道連盟と道岳連の初めての共同開催で、4月から実行委員会をつくり、成功させた。



大阪会場

6月5日 (土) 午後6時よりエルおおさかで開催。200名が参加した。会場は立ち見ができるほどの満席となり、予定の2時間がアツという間にすぎた。

労山 創立50周年を祝う



三ツ峠にて(左から大和田国際部員、ロンダ氏、臼井理事)



記念レセプションであいさつする西本会長(リーガロイヤルホテル)

2300名が出席
レセプションに
伊藤正一さんらに感謝状贈呈
労山創立50周年記念レセプションは、5月30日(日)夜6時から8時まで、講演会場に近い東京・新宿区のリーガロイヤルホテルで開催された。日曜日の夜ではあったが、会場には労山創立者の伊藤正一さんやOBの

皆さん、労山会員、招待された山岳関係者など232名が出席。海外からも、台湾山岳協会、香港山岳連合の代表がかけつけて、50年の節目を祝った。司会を塩澤良雄(全国理事・山梨山の会)、佐藤久子(三郷山の会)の両名が進められ、まず西本会長が開会あいさつ。続いてネパールのタマン駐日大使、日山協の田中会長、日本山岳協会の宮崎副会長から祝辞をうけた。田中氏から「わが協会も50周年を迎え、労山と講演会を共催できて感謝している。登山界は「一つだ」とお祝いの言葉をいただいた。労山の源流は、1960年5月12日に東京・九段会館で行われた「勤労者山岳会発会の夕べ」にさかのぼる。今日、労山は全国に671団体、20400人(2009年11月末)の



海外からの来賓とロンダ氏一家



50周年記念バッジ



創立50周年略誌

☆上記の創立50周年記念バッジは希望者に販売します。1個200円×希望個数十送料(15個までは80円16個以上は全国連盟事務局までお問い合わせください。)

組織に発展し、遭難対策や自然保護など日本の他の登山団体との協力関係も深まっている。また、アジア山岳連盟にも加盟し、国際的な活動にも取り組んでいる。

このレセプションの席上で、労山の発展に貢献してこられた伊藤正一さん、松本善明さん、平瀬元次さん、柴正夫さん、若林隆三さんの5名に、西本会長より感謝状が贈呈された。

閉会あいさつで斎藤理事長は「様々な問題をかかえながらも、次世代の登山界にならう記念すべき集いとなった。登山団体の結束を強める機会になれば幸いです」と結んだ。



熱心にメモを取りながら討議に参加

会員数の減少と高齢化がすすむ労山にとって、組織の若返りと拡大強化は最大の課題だ。これにどう取り組むべきか、「全国組織担当者会議」が、5月29日(土)～30日(日)に全国連盟事務所で開催された。2月の全国総会で個人会員制度が提起されたことをうけて関心は高く、31地方連盟48名、全国役員25名の計73名が参加した。

組織拡大強化は 差し迫った課題

この会議は、今年2月の全国総会で個人会員制度導入と組織強化の活動方針が提起された。

組織担当者会議

安全登山と 個人会員制の両立を

針一が提起され、全国的討議を進めていくことが決まったことをうけ開かれた。また、5月30日の労山創立50周年行事の前段で行われた。

この会議のなかで、全国理事会から「このままでは労山の組織が高齢化により衰退していく。今までの

り組みが報告され、既存の会を強化していく取り組みの重要性が強調された。

これをうけて、各地方連盟から活発な発言があいついでいる。「兵庫」。「未組

「10～20代の若い女性登山愛好家たちには、登山団体が変わらなると共感をえられない。学生だけでも、個人会員をやったほうがと検討している」(東京)。「私の体験からいっても個人会員制は必要。未組織の人たちにマナー講習(アンケート)を実施してみたい」(山梨)。

こうした積極的受け止めがある一方、安全登山の面での課題や、個人会員に登山者としての自覚・成長をうながす点での疑問が出された。



経験を報告する守屋前会長

「いちばん心配しているのは事故。山行計画書をどこまでチェックできるか危惧している」(兵庫)。「未組

また、「個人会員の質の確保が必要。労山の存在意義がはつきり分らない会員が増えている」(石川)、「組織に入らなければならぬ若

組織登山者の安全確保、事故を減らす観点が必要。教育のなかで事故をどう減らすか。組織拡大が必要なのは理解できるが、戦略は個人会員制だけではない」(京都)。

また、「個人会員の質の確保が必要。労山の存在意義がはつきり分らない会員が増えている」(石川)、「組織に入らなければならぬ若

労山の新特別基金(旧遺対基金)の今後のあり方を左右する、自主共済の保険業法適用除外をもとめるたかいて、新しい局面が生まれている。

改正案成立は見送り 規制撤廃の運動へ 保険業法

① 規制の内容として、金融庁への届出、法人格(一般社団法人等)の取得、保険数理人の関与、立ち入り検査の実施等があげられてい

た、これにより救済される団体があることも事実である。今後、秋以降の国会ではこの法案が成立すること

た、これにより救済される団体があることも事実である。今後、秋以降の国会ではこの法案が成立すること

た、これにより救済される団体があることも事実である。今後、秋以降の国会ではこの法案が成立すること

知っていますか？ 労山創立発起人16氏

- 1960年、「登山の正しく大衆化」を掲げて、「勤労者山岳会(労山)」設立をよびかけた発起人16氏。
- このなかには、労山創立の中心となつて、現在も健在の伊藤正一さんや元・共産党国会議員の松本善明さんをはじめ、「日本百名山」の深田久弥さん、「花の百名山」の田中澄江さん、元社会党国会議員、映画監督
- 小林国夫 1912～2007 小説家、社会運動家。農民運動・民主運動に指導的役割を果たした。
- 谷口千吉 たにくち せんきち 1912～2007 映画監督。日本山岳会員。黒沢明脚本の山岳映画「銀嶺の果て」で監督。
- 中島健蔵 なかしま けんぞう 1903～1979 日本文学者。文芸評論家。国語審議会委員。「当用漢字表」
- 丸木位里 まるき いり 1901～1995 日本画家。原爆投下直後の広島で救援活動に従事。妻の図「原爆」を連作。
- 丸木俊子 まるき としこ 1912～2000 洋画家。夫とともに「原爆」を連作。
- 松本善明 まつもと ぜんめい 1926～ 弁護士、元衆議院議員。(メッセージをいただきました)
- 伊藤正一 いとう しょういち 1923～ 登山家。三俣山荘等の経営者
- 黒田寿男 黒田 じゅお 1899～1986 衆議院議員。当選、戦後も社会党衆議院議員を務める。
- 田中澄江 たなか すみえ 1908～2000 作家、登山家。「花の百名山」で読売文学賞。
- 田辺和雄 たなべ かずお 1900～1961 登山家、植物学者。192 年
- 深田久弥 ふかた きゅうや 1903～1971 運動家。「日本資本主義発達史講座」にたずさわる。
- 高倉テル たかくら てる 1891～1986 小説家、社会運動家。農民運動・民主運動に指導的役割を果たした。
- 高倉テル たかくら てる 1891～1986 小説家、社会運動家。農民運動・民主運動に指導的役割を果たした。
- 谷口千吉 たにくち せんきち 1912～2007 映画監督。日本山岳会員。黒沢明脚本の山岳映画「銀嶺の果て」で監督。
- 中島健蔵 なかしま けんぞう 1903～1979 日本文学者。文芸評論家。国語審議会委員。「当用漢字表」
- 丸木位里 まるき いり 1901～1995 日本画家。原爆投下直後の広島で救援活動に従事。妻の図「原爆」を連作。
- 丸木俊子 まるき としこ 1912～2000 洋画家。夫とともに「原爆」を連作。
- 松本善明 まつもと ぜんめい 1926～ 弁護士、元衆議院議員。(メッセージをいただきました)
- 伊藤正一 いとう しょういち 1923～ 登山家。三俣山荘等の経営者
- 黒田寿男 黒田 じゅお 1899～1986 衆議院議員。当選、戦後も社会党衆議院議員を務める。
- 田中澄江 たなか すみえ 1908～2000 作家、登山家。「花の百名山」で読売文学賞。
- 田辺和雄 たなべ かずお 1900～1961 登山家、植物学者。192 年
- 深田久弥 ふかた きゅうや 1903～1971 運動家。「日本資本主義発達史講座」にたずさわる。

「人はなぜ山に登るか。(背後に) 社会があるから」と。

「人はなぜ山に登るか。(背後に) 社会があるから」と。

「人はなぜ山に登るか。(背後に) 社会があるから」と。

「人はなぜ山に登るか。(背後に) 社会があるから」と。

「人はなぜ山に登るか。(背後に) 社会があるから」と。

新会長に西本さん 第29回総会で交代



来賓あいさつする日本山岳会の藤本副会長

2月20・21日、日本勤労者山岳連盟第29回全国総会が東京・晴海グランドホテルで開催された。今回の総会では組織強化のための個人加盟制度と多発する重大事故への対応が最重要課題となった。「創立50周年 大胆な組織改革と重大事故の撲滅を」をうかがい、1号議案では09年の活動総括と2010年の活動方針、2号議案では「個人加盟制度」導入と組織強化方針、3号議案では新総合戦略の「新メディア戦略」の提案、49地方連盟中40地方連盟から76名の代議員と全国連盟役員46名、来賓6名、傍聴・取材他7名の合計135名が出席した。

来賓として(社)日本山岳協会の田中文明会長、(社)日本山岳会の藤本慶光副会長、(社)日本山岳方イデオロギイの磯野剛太専務理事、新日本スポーツ連盟の和食昭夫理事長と日本ヒマラヤ協会の伊東満理理事長から挨拶をいただいた。特に日本山岳会の藤本副会長からは「新しい国民の祝日として『山の日』制定をめざしたい」と協力の要請があった。

総会議長には代議員の

中から北海道道央地区連盟の松浦孝之理事長、栃木県連盟の竹内律理事、兵庫県連盟の加納公子理事の3名を選出。2号議案の「個人加盟制」やメディア戦略・雪崩講習会・基金の運用について熱い議論が交わされ、保留があったものの全て反

「個人会員制」の取り扱いについて、多数決や全国で決めたことを地方へ強制するというやり方はしない、で欲しいとの意見があり、1年間論議して「決定する」を「検討する」に修正した。議案は採決の結果、一部が会長を勇退

役員選挙では会長が関東ブロック選出の副会長だった西本武志氏に代わり、副会長が金井光正氏(北信越・長野)と滝上肇氏(近畿・大阪)に代わった。全国理事は4名の理事が新しく信任された。

第29期 全国連盟 役員

役職	氏名	年齢	地方連盟(協議会)	所属団体	
会長	西本 武志	69	全国	5・10クラブ、練馬山の会	
副会長 (10)	安田 治	64	北海道	札幌中央勤労者山岳会	
	村山 正三	68	奥羽	盛岡山友会	
	赤間 弘記	62	東北	朋友会	
	未定		関東		
	金井 光正	63	北信越	まみくとい山の会	
理事 (5)	洞井 孝雄	60	東海	半田ファミリー山の会	
	海上 肇	69	近畿	このはな山の会	
	原田 武夫	61	中国	倉敷勤労者山岳会	
	三野 雄二郎	62	四国	観音寺あけぼの山の会	
	樺島 祥平	68	九州	熊本勤労者山岳会	
	理事	斉藤 義孝	61	東京	品川山の会さんかくてん
	副理事長	石川 友好	60	東京	大田ハイキングクラブ
	井芹 昌二	60	埼玉	登攀クラブ岩つばめ	
	後藤 功一	61	東京	むらやま山の会	
	高橋 友也	58	東京	杉並勤労者山岳会	
藤元 理津子	63	東京	グルベわたすげ		
事務局長	川嶋 高志	49	東京	練馬山の会、ACT	
理事 (19)	伊藤 正勝	65	埼玉	わらび山の会	
	臼井 邦徳	61	東京	溪嶺会	
	浦添 高徳	63	東京	石神井山の会	
	大澤 辰雄	58	埼玉	登歩富士見山の会	
	岡田 賢一	61	千葉	船橋勤労者山の会	
	神村 和子	64	茨城	つくば山の会	
	後藤 真一	48	神奈川	山岳旅行人メーグリ家	
	今野 善伸	58	栃木	野木山会	
	坂本 正治	50	東京	同人クライミング・ファイト	
	塩澤 良雄	59	山梨	山梨山の会	
	田上 千俊	63	東京	八王子おおるり山の会	
	田村 和寿	46	神奈川	相模アルパインクラブ	
	花村 哲也	66	東京	町田グラス山の会	
	林 祥介	61	東京	世田谷山友会	
	廣木 国昭	65	千葉	ちば山の会	
	藤樹 啓志	49	埼玉	登攀クラブ岩つばめ	
	本多 麗子	63	東京	ハイキングクラブ遊友	
	牧添 みちよ	60	埼玉	所沢ハイキングクラブ	
	宿谷 猛	63	東京	練馬山の会	
小杉 勝雄	60	埼玉	大宮勤労者山岳会		

○第11回東日本女性登山交流集会

1月23日、24日 東京都連盟が主管し高尾山周辺で開催。「高尾山の自然をまもる市民の会」の橋本良仁事務局長と奥多摩に住む登山家の山野井妙子さんを講演者に迎え、13都県162名の参加で充実した集会となった。

昨年立ち上げたばかりの「東京女性ネットワーク」が実行委員として活躍した。

○第24回全国雪崩講習会

2月11日、14日 今年も中央アルプス・千畳敷カールと長野県・黒姫高原で開催。標高2600mの千畳敷では11日に雨が降るといふ異常気象の中、早朝埋没体験や機種別ビーコン講習など新しい試みを取り入れた。基本・中級・上級の受講生16名、講師・スタッフ16名の32名が真剣に雪崩について学習した。

○「トムラウシ」シンポジウム

2月28日 日本山岳サーチャンドレスキー研究機構が中心となり山岳や日本山岳協会も共催して神戸市王子動物公園ホールで開催した。約300名という予想以上の参加者で昨年の大事故を教訓とするために多くの登山者と関係者が集まった。

遭難したパーティの生存者による報告や有識者によるパネルディスカッションなど具体的な内容で、遭難事故をなくしたいという参加者の強い思いが伝わってくる集会となった。

○近畿ブロック 搬出講習会

4月4日 神戸セミナーハウスと守口市キャンパスで開催。毎年多くの参加者だが今年も270名以上が参加し女性も講師として活躍した。

○「武庫川ダム建設中止報告」集会

6月6日 全国一斉クリーンハイイクに合わせて開催。武庫川深谷の自然を守るために12年前からダム建設の中止を求め署名運動が開始され、今年1月に兵庫県知事が建設の中止を表明した。

○青年学生委員会 主催・クワイミング講習会

5月8日、9日 埼玉県日和田山で開催。東京外国語大学と慶応大学の学生3名を含む10名の受講生と4名の講師スタッフで基本技術を学んだ。

○青年学生委員会 主催・沢登り講習会

6月26日 神奈川県丹沢小川谷廊下で開催。受講生7名、講師2名で行った。昨年同様、雨模様で天候だったが水量は少なく快適に進行し登る技術だけでなく現在地確認など基本技術を習得した。

○全国女性 担当者会議

6月26日、27日 全国連盟事務所にて24都府県から41名の参加者で開催。昨年のヒマラヤ学校、今年の田部井淳子氏の講演会などについて活発な討論を行った。

○山岳4団体懇親会

7月9日 (社)日本山岳協会、(社)日本山岳会と今回から(社)日本山岳方イデオロギイが参加して定例の懇親会を開催。新法人への移行問題や「山の日制定」などについて懇談した。

全国・地方の 主な取り組み

2010年度



クライミング講習会の参加者

2010年度以降の全国集会・会議予定

- ①機関会議・集会
 - 全国遭難対策担当者会議 10月2日～3日 (東京・全国連盟事務所)
 - 第29期全国評議会 2011年2月19日～20日 (東京・晴海GH)
- ②行事・集会
 - MFAインストラクター養成講座 秋(未定)
 - 全国ハイキングリーダー学校 9月18日～9月20日 (群馬県・湯浅温泉)
 - 第22回全国海外登山集会 11月13日～14日 (東京・全国連盟事務所)
 - 全国登山者自然保護集会 11月27日～28日 (東京・青梅市 プリチストン奥多摩園)
- ③創立50周年記念行事
 - 記念トレッキング「カイルス巡礼他」 6月30日～7月21日
 - 記念講演会「田部井淳子氏」 10月2日 (熊本市 崇城大学市民ホール) 10月9日 (仙台市 みやぎ生協文化会館)
- ④国際会議・集会
 - アジア山岳連盟(UAAA)年次総会 10月～11月 (中国・北京)
- ⑤友好山岳団体との共同の集会・会議等
 - 全国山岳遭難対策協議会 7月16日 (東京・渋谷区 オリンピック記念青少年センター)

全国ハイキングリーダー学校

ハイキングのリーダーに必要な知識、また、ハイキング学校を開催するためのノウハウを講習する

●日程 2010年9月18日(土)14:00～20日(月・祝)10:30

●会場 群馬県・湯浅温泉 もちや旅館 0278-72-2480

●参加費 22000円 (二泊五食付き)

●定員 30名

●講習内容

- ①リーダーのあり方・養成方法
- ②海外トレッキングの計画の仕方
- ③地図読み④セルフレスキュー

申込 所定の用紙で全国連盟まで

第15回全国登山者自然保護集会

●日程 2010年11月27日(土)13:00～28日(日)12:00

●会場 東京都青梅市 プリチストン奥多摩園

●参加費 8000円(一泊二食付き) 宿泊なしは資料代 500円 交流会参加費 1500円

●メインテーマ 「生物多様性の恵みを大切に、登山文化の発展を」

●講演 小川潔氏「生物多様性の保全と登山者の役割について」

●分科会 トイレ問題、野生鳥獣など

問い合わせ 全国連盟自然保護委員会

山行計画書 もう一度点検!

昨年(09年度)は19名の労山会員が死亡行方不明となった

☆今年も5名

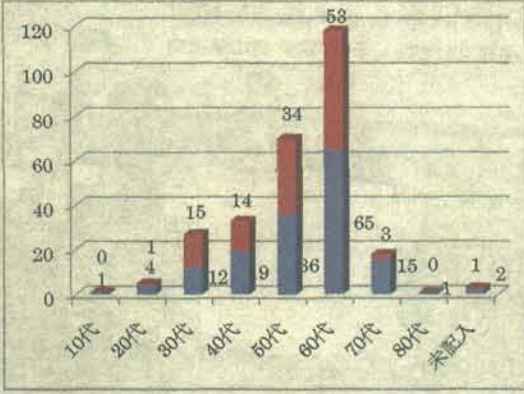
7月16日に東京で全国遭難対策協議会(文部科学省など主催)が開催された。ついでないことも原因の警察庁による昨年の山岳遭難の発生件数は1676件、遭難者数は2085名で過去最高となった。死亡行方不明者は317名。このうち中高年(40歳以上)の割合は約90パーセント。単独行による遭難は667名で全遭難者の32%、このうち死亡行方不明者は160名で24%を占めている。単独行で遭難すると4人に1人が帰らぬ人となる。労山会員の事故では中堅からベテランの重大事故が目立った。最近の異常気象は経験による予測をはるかに超えたものであることが強度を必ず確認する。

7月16日に東京で全国遭難対策協議会(文部科学省など主催)が開催された。ついでないことも原因の警察庁による昨年の山岳遭難の発生件数は1676件、遭難者数は2085名で過去最高となった。死亡行方不明者は317名。このうち中高年(40歳以上)の割合は約90パーセント。単独行による遭難は667名で全遭難者の32%、このうち死亡行方不明者は160名で24%を占めている。単独行で遭難すると4人に1人が帰らぬ人となる。労山会員の事故では中堅からベテランの重大事故が目立った。最近の異常気象は経験による予測をはるかに超えたものであることが強度を必ず確認する。

7月16日に東京で全国遭難対策協議会(文部科学省など主催)が開催された。ついでないことも原因の警察庁による昨年の山岳遭難の発生件数は1676件、遭難者数は2085名で過去最高となった。死亡行方不明者は317名。このうち中高年(40歳以上)の割合は約90パーセント。単独行による遭難は667名で全遭難者の32%、このうち死亡行方不明者は160名で24%を占めている。単独行で遭難すると4人に1人が帰らぬ人となる。労山会員の事故では中堅からベテランの重大事故が目立った。最近の異常気象は経験による予測をはるかに超えたものであることが強度を必ず確認する。

2. 性別年齢別遭難事故の状況

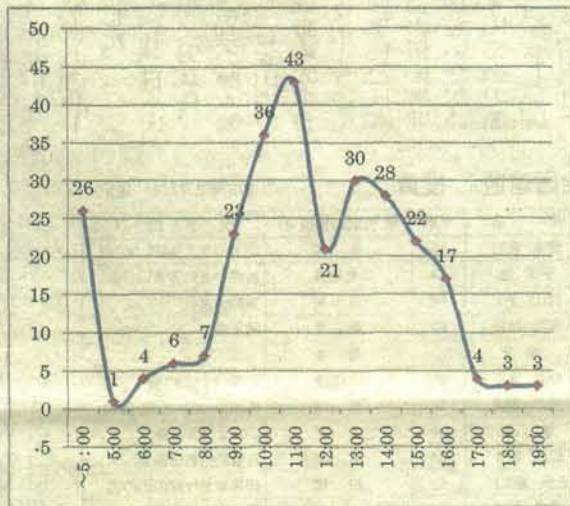
	男	女	事故者数
10代	1	0	1
20代	4	1	5
30代	12	15	27
40代	19	14	33
50代	36	34	70
60代	65	53	118
70代	15	3	18
80代	1	0	1
未記入	2	1	3
合計	155	121	276



男性会員が50パーセントを超え、年代からは50代から60代に発生が大きく上回った。50歳代女性が減少傾向にあり、遭難対策的を60歳代男性に大きく切り替えることも必要。

3. 時間帯別遭難事故状況

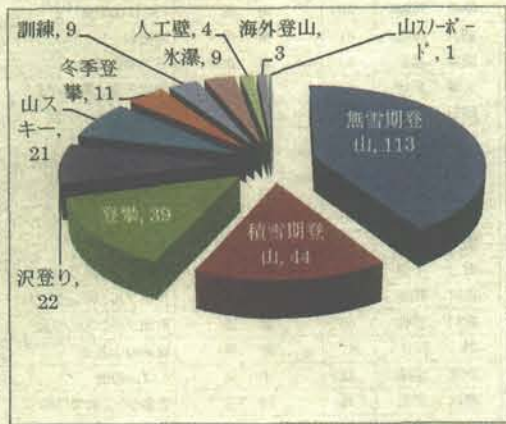
時間帯	事故者数
~5:00	26
5:00	1
6:00	4
7:00	6
8:00	7
9:00	23
10:00	36
11:00	43
12:00	21
13:00	30
14:00	28
15:00	22
16:00	17
17:00	4
18:00	3
19:00	3
未記入	2
合計	276



過去のデータから11:00ピークと下山時と思われる14:00周辺に最大ピークを示していた。2009年は午前中の11:00に最大ピークが見られる。

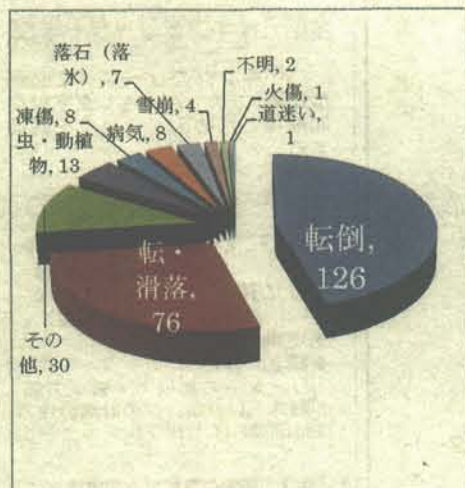
4. 山行形態別事故者数

山行形態	事故者数
無雪期登山	113
積雪期登山	44
登攀	39
沢登り	22
山スキー	21
冬季登攀	11
訓練	9
氷瀑	9
人工壁	4
海外登山	3
山スキーボード	1
合計	276



5. 原因別事故者数

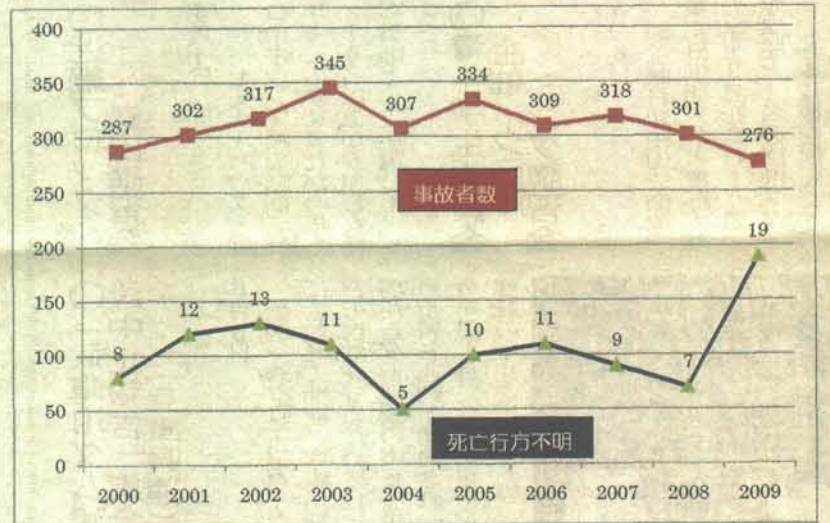
原因名	事故者数
転倒	126
転・滑落	76
その他	30
虫・動植物	13
凍傷	8
病気	8
落石(落氷)	7
雪崩	4
不明	2
火傷	1
道迷い	1
合計	276



1. 過去10年間の事故の推移

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
事故者数	287	302	317	345	307	334	309	318	301	276
死亡行方不明	8	12	13	11	5	10	11	9	7	19

事故者数276人は2008年と比較すると25人減少となる。死亡事故が19名は12人の増加である。二度の非常事態宣言にも関わらずの重大事故の発生である。高齢者会員に加え、中堅あるいは経験豊富な会員によるもの多かったことも特徴的である。



※死亡行方不明者のグラフ曲線は数値の10倍である。

6. 都道府県別事故発生状況

連盟	08	09	比	会員数	事故率	連盟	08	09	比	会員数	事故率
東京都	69	56	-13	2880	1.9%	道東	3	3	0	67	4.5%
大阪府	32	26	-6	1527	1.7%	岐阜県	4	2	-2	256	0.8%
兵庫県	23	25	2	1994	1.3%	香川県	1	2	1	309	0.6%
道央	19	19	0	635	3.0%	山梨県	0	2	2	94	2.1%
宮城県	4	13	9	241	5.4%	栃木県	6	2	-4	448	0.4%
千葉県	6	12	6	721	1.7%	奈良県	1	2	1	320	0.6%
神奈川	11	11	0	648	1.7%	富山県	1	2	1	176	1.1%
福岡県	14	10	-4	997	1.0%	福井県	1	2	1	88	2.3%
静岡県	10	8	-2	769	1.0%	福島県	2	2	0	133	1.5%
埼玉県	7	6	-1	571	1.1%	高知県	3	1	-2	153	0.7%
徳島県	0	6	6	259	2.3%	佐賀県	3	1	-2	95	1.1%
石川県	5	6	1	282	2.1%	島根県	2	1	-1	214	0.5%
茨城県	2	5	3	226	2.2%	道北	0	1	1	37	2.7%
群馬県	9	5	-4	469	1.1%	鳥取県	1	0	-1	43	0.0%
愛知県	8	5	-3	1129	0.4%	広島県	2	0	-2	235	0.0%
広島県	2	5	3	235	2.1%	山口県	1	0	-1	105	0.0%
滋賀県	4	5	1	274	1.8%	宮崎県	4	0	-4	50	0.0%
長野県	5	4	-1	430	0.9%	大分県	1	0	-1	38	0.0%
長崎県	5	4	-1	401	1.0%	熊本県	3	0	-3	101	0.0%
和歌山	4	4	0	383	1.0%	鹿児島	1	0	-1	131	0.0%
岡山県	5	3	-2	667	0.4%	沖縄県	1	0	-1	52	0.0%
岩手県	0	3	3	318	0.9%	秋田県	0	0	0	5	0.0%
京都府	11	3	-8	905	0.3%	山形県	0	0	0	8	0.0%
新潟県	0	3	3	267	1.1%	三重県	0	0	0	28	0.0%
青森県	0	3	3	207	1.4%	愛媛県	0	0	0	61	0.0%